



●**門昌庵事件**
松前藩主矩廣の時代、悪臣たちの悪巧みにより柏巖和尚は熊石に流された。門昌庵を結び、読経三昧の日々を送っていたが、再び策略により斬首された。すると突如、川が逆流し嵐が起こるなど異変現象が起こり、和尚のたたりと恐れられた藩はその首を手厚く葬ったという。



●相沼奴

●**相沼八幡神社例大祭(上)／泊川北山神社例大祭(下左)／根崎神社例大祭(下右)**
熊石地域では8月のお盆期間中、泊川北山神社、相沼八幡神社、根崎神社の三社の例大祭が各地区で相次いで開催される。どの祭にも古くから伝わる山車行列が練り歩く。相沼地区の格調高い相沼奴の行列は40名以上で編成され、傘取、長柄、七つ道具と続く。泊川地区には相沼奴とは別に「道中振り奴」など泊川独自に伝承されてきた「泊川奴」がある。



●**根崎神社例大祭の山車**

1606(慶長11)年から400年あまりも受け継がれている八台の山車が続き、壮麗な姿を見せる。ニシン漁場として栄えた熊石の歴史を物語るお盆の伝統行事。関内地区から鮎川地区までを2日間かけて練り歩く。京都祇園祭りの流れをくむ伝統の祭りばやしの音色がお祭りムードを盛り上げる。



松前藩政下、ニシンの千石場所として繁栄してきた熊石地域
道南の日本海沿岸地域には鎌倉時代から和人が本州から移り始め、熊石にも鎌倉後期には定住する人が現れたと言われています。
近世初頭に松前藩が置かれると、和入地と蝦夷地の境界として1691(元禄4)年に熊石番所が設置されました。熊石は幕藩体制下の日本における最北端の地として、ここから北へ出入りする人の検問や不正交易の監視、追ニシン税徴収等が行われてきました。熊石はニシンの千石場所として繁栄し、松前藩の経済的基盤を支える重要な拠点として位置づけられてきました。
明治になると廃藩置県後、戸長役場制度が定められ、明治6年には熊石、泊川、相沼3村の戸長が任命されます。明治35年には北海道二級町村制が改正公布され、新しく熊石村として発足しました。昭和35年には人口が1万人を超え、昭和37年には町制施行により熊石町が誕生しました。その後、平成17年に八雲町と合併して今日に至っています。
松前藩政下、漁業で栄えた熊石には、日本海を回航する北前船がもたらした文化や風習が受け継がれています。1600年代初めに創建された熊石根崎神社、相沼八幡神社、泊川北山神社の三社は、約400年の歴史を有しており、いずれにも円空作の観音像がまつられています。1859(安政6)年に相沼八幡神社の本殿再建の際、内地から出稼ぎにきていた「雇い」(ニシン漁従事者)によって行われ、以後150年余にわたって受け継がれてきた奉納奴です。また、根崎神社例大祭で神輿と山車が練り歩く際の祭りばやしは、京都祇園祭の流れをくむものと言われています。

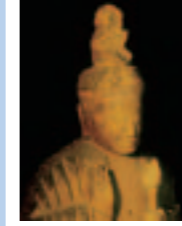


社の本殿再建の際、内地から出稼ぎにきていた「雇い」(ニシン漁従事者)によって行われ、以後150年余にわたって受け継がれてきた奉納奴です。また、根崎神社例大祭で神輿と山車が練り歩く際の祭りばやしは、京都祇園祭の流れをくむものと言われています。



●**熊石歴史記念館**

ニシン漁の歴史をはじめ、1691(元禄4)年に設置された熊石番所や北前船によってもたらされた文化や生活スタイルなど、熊石地域の歴史、風俗・文化が展示されている。昭和41年、鮎川地区の洞窟で偶然発見されたメノウ入り土偶(レプリカを展示)は玉装飾土偶として非常に珍しく、現在国立歴史民俗博物館に保存されている。



●**円空仏(左)と木喰仏(右)**

17世紀後半、道南各地を行脚した仏師円空は熊石に滞在し、根崎神社の聖観音立像、相沼八幡神社の来迎観音像、泊川北山神社の来迎観音像などを残している。約100年後に熊石を訪れた木喰は円空仏に感銘を受けて作仏修行の道に入った。木喰仏は町内の法蔵寺と薬師寺に地藏菩薩像が残されている。

●**奇岩雲石**

松前家勢とアイヌ民族との抗争の際、追い詰められた家臣らがこの岩陰に身を隠そうとした時、突如雷鳴とどろき黒雲が巻き起こり、松前勢は九死に一生を得たとされる伝説が残る奇岩雲石。

●**メノウ入り土偶**

国指定重要文化財で、鮎川洞窟遺跡から出土した土偶。縄文時代晩期のものと推定される。

◆ **八雲町年表** ◆

- 1606(慶長11)年 根崎神社創立
- 1615(元和元年)年 相沼八幡神社、北山神社創立
- 1666(寛文6)年 仏師円空、熊石に滞在
- 1678(延宝6)年 門昌庵事件
- 1691(元禄4)年 相沼内番所、熊石に移る
- 1721(享保6)年 法蔵寺前に山海漁獵供養塔建立
- 1773(安永2)年 山越内所に会所を設置
- 1780(安永9)年 木喰行道、法蔵寺地藏菩薩像を完成
- 1800(寛政12)年 幕府山越内を「華夷の境」と定める
- 1858(安政5)年 山越内場所「村並」となる
- 1859(安政6)年 相沼奴が誕生
- 1861(文久元)年 山越内の関門を廃して自由通行許可
- 1862(文久2)年 遊楽部館山で我が国初の火薬による発破を使用
- 1871(明治4)年 斗南藩が分領支配のため山越内村に入植
- 1873(明治6)年 楡山管内の漁民騒動(楡山騒動)
- 熊石、泊川、相沼の3村戸長役場設置
- 山越内に教育所設置
- 1877(明治10)年 熊石、泊川、相沼内の3村の戸長役場を熊石に開設
- 1878(明治11)年 雲石・相沼内・泊川に小学校開校
- 徳川慶勝公、遊楽部官有原野150万坪の無償払い下げを受け、徳川農場ひらく
- 1879(明治12)年 子弟教育のため八雲学校設立
- 1880(明治13)年 徳川農場で開拓使函館支庁の委嘱を受けて鮭魚天然孵化事業試験開始
- 1881(明治14)年 遊楽部と黒岩を八雲村と称して「山越内村外一ヶ村戸長役場」設置
- 1884(明治17)年 八雲神社神殿落成
- 1886(明治19)年 相沼内村、泊川村を熊石村戸長役場に合併
- 1889(明治22)年 徳川農場、植民制度を廃止、小作制度に
- 1897(明治30)年 川口良昌「川口式デンブン製造機」発明
- 1902(明治35)年 八雲村と山越内村合併、二級町村制施行、新たに八雲村として発足
- 二級町村制施行、新たに熊石村として発足
- この頃よりニシン漁衰退
- 1903(明治36)年 鉄道開通、管内4駅(野田追・山越内・八雲・黒岩)開駅
- 1905(明治38)年 八雲片栗粉同業組合設立
- 1907(明治40)年 八雲村、一級町村制施行
- 1912(明治45)年 徳川農場、土族移住者75戸に土地を分与し、自営農となる
- 1913(大正2)年 ニシン最後の漁
- 1915(大正4)年 落部村、二級町村制施行
- 1916(大正5)年 第一次世界大戦で農産物価格暴騰

※緑字は八雲地域、青字は熊石地域の出来事。